

取扱説明書

防排煙連動操作盤

NLD915AE10

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。連動操作盤の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
 - 連動操作盤を音響強制停止状態にしない。
 - 電源スイッチや電池を切らない。
 - 正常な監視状態にあるか確認する。(平常時の連動操作盤の状態を参照)
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合	<ul style="list-style-type: none"> ●119番などに通報する。 ●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。
火災でない場合	<ul style="list-style-type: none"> ●発生原因がわかれば取り除く。 ●発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

連動操作盤の扉を開けるときのご注意

180°以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあるので注意してください。

ご使用前に

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて防火戸などを自動的に作動させる働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
- この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
- この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検を行ってください。(定期点検は、施工様と施工店または点検契約店でご契約ください。)

安全上のご注意

必ずお守りください

警告	
	<p>機器を分解したり、修理・改造しない。故障の原因となります。</p> <p>防火管理者および消防設備士などの資格者以外は連動操作盤内部に手を触れない。感電・故障の原因となります。</p> <p>ぬれた手で連動操作盤をさわったり、水をつけたり、水をかけない。感電・故障の原因となります。</p> <p>感知器は絶対に取りはずさない。出火時に火災発見ができません。</p> <p>防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。</p> <p>点検用スイッチカバー内にあるスイッチは操作しない。(点検資格者、消防設備士が操作するところです。)</p>

注意	
	<p>連動操作盤のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認する。正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。</p> <p>点検用スイッチカバーは必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。</p>

(予備電源(ニカド電池)取り扱い上のご注意)

注意	
	<ul style="list-style-type: none"> ●電池は絶対に分解しない。電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。 ●交換した電池は、火中に投入しない。電池が破裂する場合があります。危険です。電池はリサイクルに協力してください。
	<p>コネクタは極性を守って正しく差し込む。逆に差し込むと電池のふくれや破裂の危険性があります。</p>

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

ご使用になる皆様へ

壁掛型：NLD915AE10

こんなときは

- 下記のような場合、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

<p>増改築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●増築や改装をしたとき 	<p>修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●建物を修繕したとき 	<p>塗りかえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●天井や壁を塗りかえたとき
---	---	--

<p>設備工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設備の工事をしたとき 	<p>電気・ガス・水道工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電気・ガス・水道工事をしたとき 	<p>天災被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ●台風・雷・地震などの被害を受けたとき
--	---	--

お手入れ方法

- 表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。
 - ふだんのおそうじは、やわらかい布でふき取ってください。
 - 汚れが目立つときは、中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
 - 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。



ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。



平常時の連動操作盤の状態

火災が発生したとき、連動操作盤が正常に動作するよう、平常時は下記の状態であることをお確かめください。

- 平常時において下記の状態とならない場合、「異常時の点検・処置」(裏面)の内容を確認のうえ、点検契約店にご連絡ください。
- 交流電源灯……点灯(緑) ■警戒中灯……点灯(緑) 左記以外はすべて消灯

各部のなまえとはたらき

地区灯(赤)

- 「点灯」で防火戸などの入力
- 「早点滅」で火災試験、防排煙個別起動制御時、防排煙個別復帰制御時の回線選択時
- 「中点滅」で防火戸などの未作動
- 「遅点滅」で感知器配線の断線
- 「特殊点滅」で防排煙感知器の作動(防排煙連動設定がOFF設定時のみ)

交流電源灯(緑) (平常時点灯していること)

交流電源が入っていることを、点灯で知らせます。

トラブル灯(赤)

連動操作盤または配線に異常が起きたとき、点滅で知らせます。点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。(異常の内容は液晶表示部で確認できます。)

スイッチ注意灯(赤)

いずれかのスイッチが通常の状態でないとき、点滅で知らせます。

音響強制停止灯(赤) ※1

主音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。

防排煙連動停止灯(赤)

防火戸などが連動しない状態であることを点滅で知らせます。

※1：点検時音響鳴動動作中は早点滅に変わります。

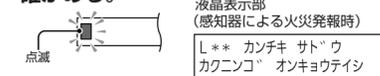
復旧スイッチ

押すと防排煙灯・地区灯が消灯し、主音響が止まり、通常の監視状態に戻ります。

連動操作盤が警報した場合

主音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。

1 地区灯(赤)の点灯、または点滅位置によってどこで火災が起きているか確かめる。



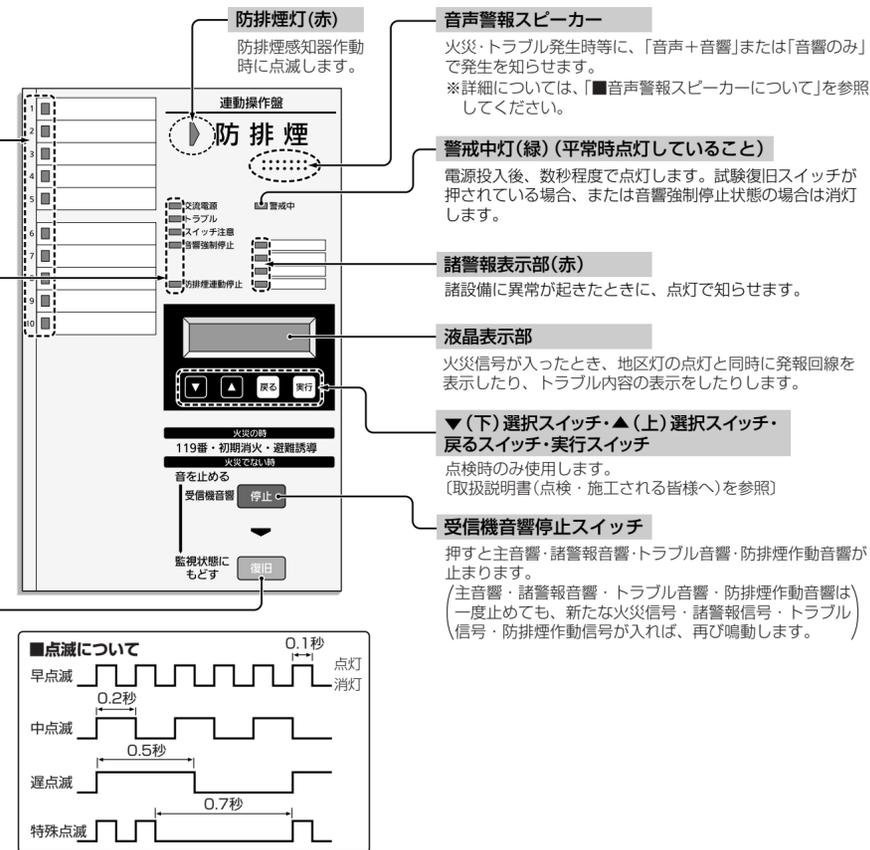
2 受信機音響停止スイッチを押し、主音響を止める。



3 出火場所へ行き状況を確認する。

火災の場合

- 119番に通報する。**その後、可能であれば避難誘導や初期消火など適切な処置をする。
- 火災鎮火後、復旧スイッチを押して通常の監視状態に戻す。**



火災でない場合

4 地区灯の点灯、または点滅している場所で、次の状況を確認処置する。

- 感知器が作動していないか？
- 確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。
 - 熱感知器の場合、ストーブなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変化すると作動することもあります。

5 復旧スイッチを押し、地区灯と防排煙灯、液晶表示部が消えるか確かめる。

●感知器の確認灯も消えます。
※地区灯・防排煙灯が消えない場合はもう一度**4**の手順を繰り返してください。

6 通常の監視状態に戻る。

地区灯・防排煙灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

音声警報スピーカーについて

連動操作盤の状態	音響	音声(※1)
防排煙感知器作動音響	ピーピーピーピー	〇〇階で(△△回線で)(※2)火災感知器が作動しました。現場を確認してください。(女性の声)
トラブル時	ピー	トラブルが発生しました。(女性の声)
諸警報入力・防火戸などの作動	ブーブーブーブー(※3)	—
蓄積開始時(1回のみ)(※4)	ブーブー	—

※1 設定により、音声をなくして音響のみを鳴動させる設定もできます。
 ※2 設定により、発報階・発報回線・場所なしの切替設定ができます。
 ※3 設定により、鳴動させない設定ができます。(出荷時設定「鳴動する」)
 ※4 設定により、鳴動させる設定ができます。(出荷時設定「鳴動しない」)
 各種設定については施工店・点検契約店にご相談ください。

異常時の点検・処置

警告



この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

- 以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。正常に戻らなかった場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	防排煙設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？ 熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。 熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作をする。	諸警報表示部が点灯し、諸警報音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	異常が起きた設備の状況を確認し、施工店または点検契約店へ連絡する。

- 以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	連動操作盤内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ AC100V配線が断線していないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 配線を直す。 連動操作盤内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 試験復旧灯(赤)が点滅していないか？	音響強制停止状態を解除する。 試験復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？ 火災以外の原因はないか？	配線を直す、感知器を確認する。 日常点検をする。
火災復旧状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器が作動状態になっていないか？	感知器から熱または煙を取り除く。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯し、液晶表示部に「トラブルドウサフノウ」が表示している。	防排煙設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？ 連動操作盤内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？ 停電などにより交流電源が切れていないか？ 副受信機電源(DI+、DI-)が20.4V以上あるか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。 連動操作盤内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 連動操作盤内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。 停電状態が復電するまで待つ。 連動操作盤内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡する。
トラブル灯が点滅、トラブル音響が鳴動し、液晶表示部に「トラブル***」が表示している。	トラブル確認操作により、トラブル内容・発生場所を確認する。 (トラブル確認操作については取扱説明書(点検・施工される皆様へ)の「トラブル確認の方法」を参照してください。)	「トラブル確認の方法」ページの該当項目の点検・処置を行う。
(DL-DC)配線の終端抵抗器をはずしても断線表示しない。	終端抵抗器設定が正しく設定されているか？ 該当回線があき回線登録されていないか？ 該当回線の回線種別が警報回線に設定されていないか？	終端抵抗器設定を確認する。詳しくは設定マニュアルを参照してください。 指定の終端抵抗器を接続した状態であき回線登録を再度行う。 回線種別設定を確認する。詳しくは設定マニュアルを参照してください。(回線種別が警報回線の場合は断線表示はしません。)

連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

内部回路図

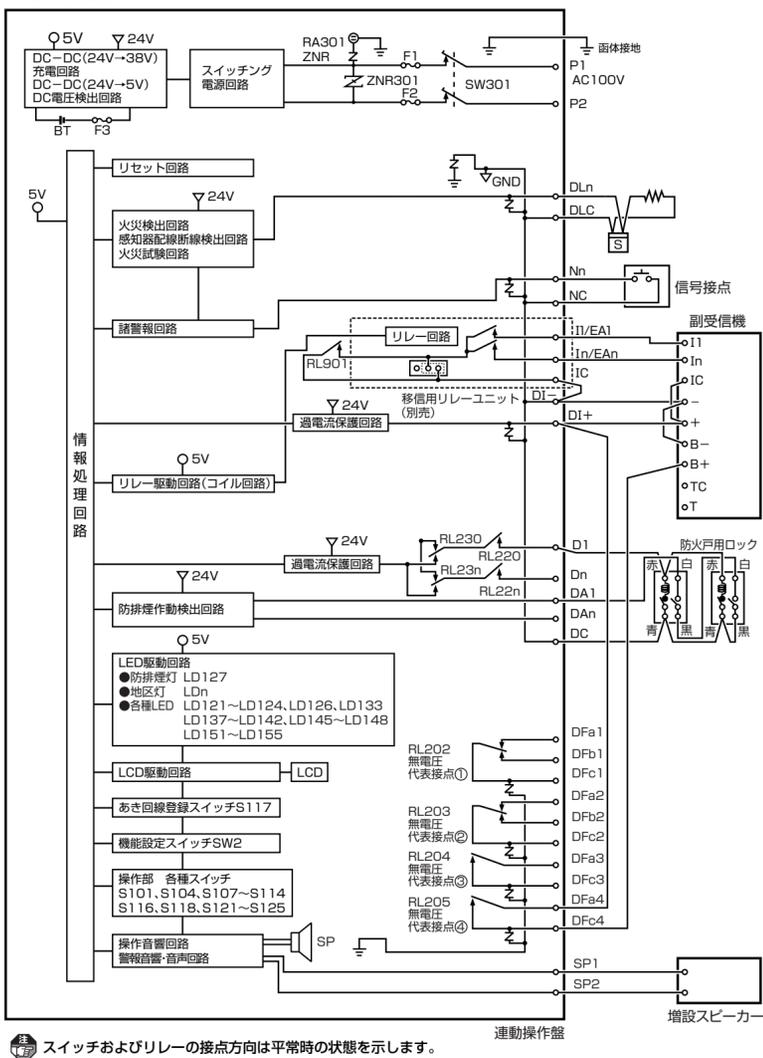
●ご注意

- 蓄積型感知器の接続はできません。

●適用品番 NLD915AE10

記号	名称
SW301	交流電源スイッチ
F1,F2	電源一次ヒューズ
F3	電池ヒューズ
BT	電池
SP	音声警報スピーカー
LCD	液晶表示装置
RL202~RL205	代表移信リレー
RL901	移信コモンリレー
RL220~RL22n	防排煙制御(D)切替リレー
RL230~RL23n	防排煙制御(D)切替リレー
LD127	防排煙灯(赤)
LDn	地区灯(赤)
LD121	交流電源灯(緑)
LD122	警戒中灯(緑)
LD123	トラブル灯(赤)
LD124	音響強制停止灯(赤)
LD126	スイッチ注意灯(赤)
LD133	防排煙運動停止灯(赤)
LD137~LD140	諸警報灯1~諸警報灯4(赤)
LD141	蓄積解除・蓄積中灯(赤)
LD142	試験スイッチ灯(赤)
LD145	点検スイッチ灯(赤)
LD146	試験復旧スイッチ灯(赤)
LD147	トラブル履歴確認灯(赤)
LD148	移信停止灯(赤)
LD151	防排煙停止スイッチ灯(赤)
LD152~LD155	OP1灯~OP4灯(赤)
S101	受信機音響停止スイッチ
S104	復旧スイッチ
S107	蓄積解除スイッチ
S108	点検スイッチ
S109	実行スイッチ
S110	戻るスイッチ
S111	▲(上)選択スイッチ
S112	▼(下)選択スイッチ
S113	試験復旧スイッチ
S114	試験スイッチ
S116	トラブル履歴確認スイッチ
S117	あき回線登録スイッチ
S118	移信停止スイッチ
S121	防排煙運動停止スイッチ
S122~S125	OP1~OP4スイッチ
SW2	機能設定スイッチ
ZNR,RA301	サージアブソーバ

■内部回路図



スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。

定格・仕様

常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	消費電力: 警戒時最大	11VA
		消費電力: 警報時最大	84VA
予備電源	DC24V 1200mAh ニッケル・カドミウム蓄電池 (充電方式: トリクル充電 充電電流27mA) (受託評価適合品)		
副受信機電源	DC 24V 150mA (DI + - DI -)		
感知器電圧・電流	DC 24V 短絡電流27.5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下 (DLC-DL1...DLn)		
終端抵抗器	10kΩ (5.1kΩ・20kΩも対応可能) ※1		
感知器接続数 ※2	<ul style="list-style-type: none"> ●当社熱感知器(電子式自己保持型)(A): 1回線当たり80コまで(20コ) ●当社煙感知器(NS307)(B): 1回線当たり30コまで(7コ) ●当社光電式分離型感知器(C): 1回線当たり1セットまで(接続不可) <p>※1 ()内の接続数は、終端抵抗器設定が「20kΩ」時の接続個数になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記感知器が混在する場合は、下記の方程式により接続数を決めてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・[5.1k/10k]設定時: $A + \frac{8}{3}B \leq 80$, $C = 1$ ・[20k]設定時: $A + \frac{8}{3}B \leq 20$ 		
主音響装置	警報音(断続音)+音声メッセージ DC318mA(DC5V)・85dB/m以上		
副受信機 ※3	無電圧接点出力(I C-I1...I n) 接点容量DC 30V 1Aまで		
ロック接続容量	DC24V 1回線当たり最大容量2Aまで 全回線同時作動最大容量2Aまで(DC-D1...Dn)		

代表移信接点 ※4	無電圧接点4系統(DFc1-DFa1・DFb1)(DFc2-DFa2・DFb2)(DFc3-DFa3)(DFc4-DFa4)接点容量DC 30V 1Aまで
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)
諸警報電圧・電流	DC24V 短絡電流5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下 (NC-N1...N4)
増設スピーカー ※5	光る増設スピーカー…3台/増設スピーカー…1台 配線長 φ0.9~50m以下 φ1.2~100m以下
使用周囲温度	0℃~+40℃
質量	8kg

- ※1 20kΩの終端抵抗器が接続されている場合、終端抵抗器設定を「20k」にし、それ以外は「5.1k/10k」に設定してください。また、20kΩとそれ以外(10kΩ・5.1kΩ)との混在は不可となります。
- ※2 熱感知器(接点式)は1回線当たりの接続数の制限はありません。
- ※3 副受信機と接続する場合は、P型1級用副受信機内器(NY1403FKB□□□)(□□は回線数)(別売)に同梱されている「移信用リレーユニット」を連動操作盤に取り付けたいうえで、連動操作盤と副受信機間の接続を行ってください。
- ※4 代表移信接点は、設定により用途を変更することができます。出荷時はすべて防排煙感知器代表設定になっています。(詳しくは設定マニュアルを参照してください。)
- ※5 増設スピーカーは主音響、トラブル音響、作動音響が鳴動します。(一斉試験、点検時音響は鳴動しません。)増設スピーカーの鳴動は連動操作盤の主音響鳴動と同じタイミングで警報内容を鳴動します。(鳴動停止も同じタイミングです。)光る増設スピーカーの場合は、鳴動と同時にフラッシュランプが点滅します。(点滅のみ、最大約2分間で消灯します。)

防排煙連動操作盤

施工説明書別添付	
保管用	屋内専用
点検・施工される皆様へ	



壁掛型：NLD915AE10

NLD915AE10

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に作業してください。
- 取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず作業された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

安全上のご注意 ■必ずお守りください

警告	
	絶対に分解したり、修理・改造しない。感電の原因となります。
	電池は必ず接続する。電池が接続されていないと停電時に機能しません。 試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。
	保守・点検以外で受信機音響強制停止状態にしない。(スイッチ注意灯・受信機音響強制停止灯が点滅状態) 火災時に警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります
	ぬれた手で連動操作盤をさわったり、水をつれたり、水をかけない。感電・故障の原因となります。
	感知器は絶対に取りはずさない。出火時に火災発見ができません。
	電池は火に投入したり、ショートさせない。爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。
	防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。

注意	
	点検などで動作させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作する。 不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
	点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

交流電源スイッチを「入(ON)」側にするときのご注意

移行連動・防排煙連動は、すべて停止解除(連動可能)状態で機能します。接続されている機器が連動しないように注意してください。

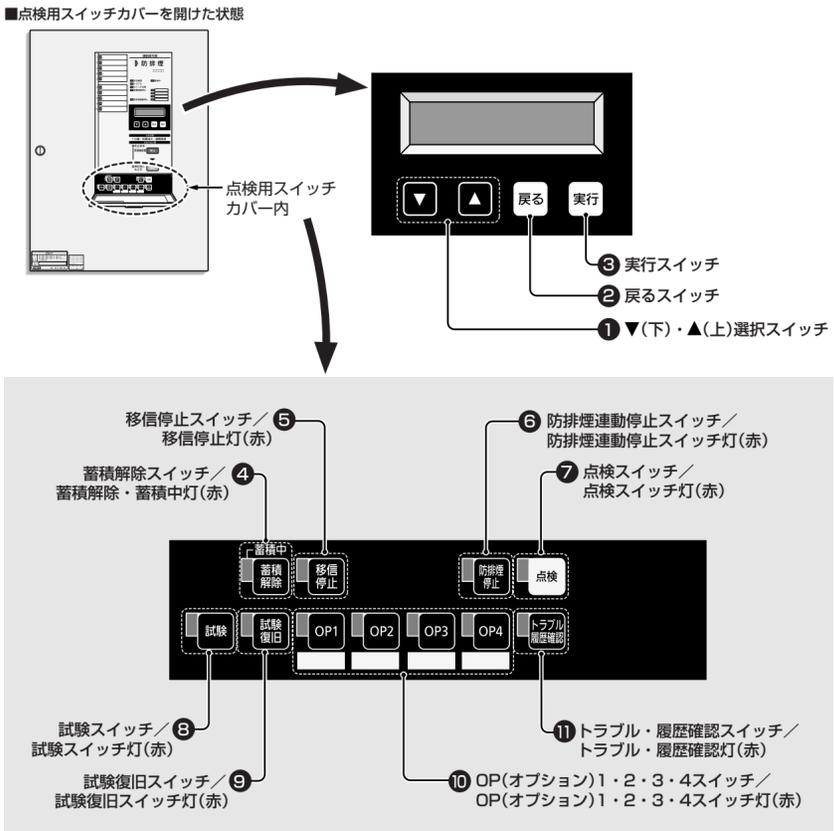
受信機音響の強制停止のしかた

- 点検時、連動操作盤から主音響・トラブル音響・諸警報音響を鳴動させない場合に設定します。
- 連動操作盤の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)

解除する場合

- 「点検スイッチ」を1秒以上押ししている間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。
- (スイッチ注意灯と音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

各部のなまえとはたらき



- ▼(下)・▲(上)選択スイッチ**
表示画面内容を切り替えるとき、または火災試験時、防排煙個別起動制御時、防排煙個別復帰制御時に使用します。
- 戻るスイッチ**
表示画面内容を1つ前の階層に戻すときに使用します。
- 実行スイッチ**
表示画面内容を実行するときに使用します。
- 蓄積解除スイッチ／蓄積解除・蓄積中灯(赤)**
押すと蓄積機能が解除され、火災信号による蓄積動作中に点灯します。
(蓄積解除・蓄積中灯／スイッチ注意灯……点滅)
もう一度押すと、蓄積機能が有効になります。
(蓄積解除・蓄積中灯／スイッチ注意灯……消灯)
- 移行停止スイッチ／移行停止灯(赤)**
●押すと代表移行接点(DFc1-DFa1・DFb1)(DFc2-DFa2・DFb2)(DFc3-DFa3)(DFc4-DFa4)の出力が「停止」状態となり火災信号が入っても誘導灯などは作動しません。
(移行停止灯／スイッチ注意灯……点滅)
もう一度押すと、停止解除になります。
(移行停止灯／スイッチ注意灯……消灯)
●回線別移行(In-Ic)の出力については、設定マニュアル(回線別移行停止設定)を参照してください。
- 防排煙連動停止スイッチ／防排煙連動停止スイッチ灯(赤)**
押すと感知器が作動しても接続された防火戸などは連動しません。
(防排煙連動停止灯／防排煙連動停止スイッチ灯)／スイッチ注意灯……点滅
もう一度押すと、停止解除になります。
(防排煙連動停止灯／防排煙連動停止スイッチ灯)／スイッチ注意灯……消灯
- 点検スイッチ／点検スイッチ灯(赤)**
受信機音響強制停止を行うときに使用します。点検スイッチを1秒以上押ししたときに点滅(スイッチ有効状態)します。
点検スイッチを1秒以上押しした場合は、点検スイッチを放した後も点検状態を継続します。(10秒点滅継続)
- 試験スイッチ／試験スイッチ灯(赤)**
一斉試験、火災試験、電池試験、防排煙制御を行うときに使用します。
押すと液晶表示部に試験メニューを表示し、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が消灯します。
- 試験復旧スイッチ／試験復旧スイッチ灯(赤)**
押すと感知器の作動試験時に、連動操作盤作動後約6秒ごとに感知器などを強制的に自動復旧させます。(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯……点滅／警戒中灯……消灯)
もう一度押すと、試験復旧が解除されます。(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯……消灯／警戒中灯……点灯)
- OP(オプション)1・2・3・4スイッチ／OP(オプション)1・2・3・4スイッチ灯(赤)**
押すと設定された動作をします。各代表接点を連動停止や接点出力などに設定が可能です。(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……点滅)(詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)
もう一度押すと、元に戻ります。(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……消灯)
- トラブル・履歴確認スイッチ／トラブル・履歴確認灯(赤)**
トラブル確認、履歴確認を行うときに使用します。押すと液晶表示部に確認メニューを表示し、トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が消灯します。

機能設定(ソフト設定)の開始方法

- 電池を外し、交流電源スイッチを「切」にした状態から点検スイッチを押しながら電源投入することで機能設定(ソフト設定)が開始します。交流電源灯・警戒中灯・トラブル灯・スイッチ注意灯が点滅します。

機能設定(ソフト設定)の終了方法

- 液晶表示部に右記内容が表示されるまで戻るスイッチを押す。
セッテイ シュリョウ ▲
ｼﾞｯｺウﾃﾞ END
- 実行スイッチを押し、すべての設定内容を保存します。保存終了後、登録完了音(ビッピッピ)が鳴り、連動操作盤が再起動します。
- 本操作を行わないと、設定データは書き換わりません。

点検のしかた

点検する前に

警告	
	●点検などで動作させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作する。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
	●点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。
	●試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。火災時、正常な火災警報動作をしません。

一斉試験の方法

- この試験は、1回線目から順次、自動的に連動操作盤内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器などの機器を含めて、試験をしてください。
- 各試験で記載どおりに動作しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

- 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し液晶表示部に「イッセイシケン」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)**
 - 「火災表示試験」「防排煙作動表示試験」「使用回線表示試験」「ランプ表示試験」「蓄積時間測定試験」「メモリー試験」を順次、自動的に行います。

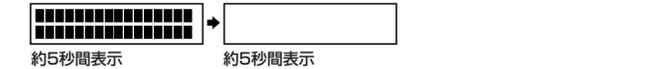


- 火災表示試験**
- 地区灯が回線ごとに順次点灯することを確認する。**
 - 順次点灯することにより防排煙灯が点滅し、主音響(音響のみ)が鳴動することを確認してください。
 - 回線種別設定を警報回線に設定している場合は、作動音響が鳴動することを確認してください。
 - 代表移行の出力はしません。

- 防排煙作動表示試験(地区ラベルが黄色の回線)**
- 地区灯が回線ごとに順次点灯することを確認する。**

- 使用回線表示試験**
- 使用されている回線の地区灯だけが点灯することを確認する。(約10秒間)**

- ランプ表示試験**
- 防排煙灯、地区灯、操作部のすべてのランプが点灯することを確認する。(約10秒間)**
 - 液晶表示部は約5秒間、全面「■」表示、その後約5秒間「(表示なし)」になります。



- ピットという音で、熱感知器および煙感知器の蓄積開始を知らせます。**

チクセキ シ'カン	●Sは「秒」を示します。
ネット: S ケムリ: S	
- 5秒～10秒後**
 - ピットという音で、熱感知器の蓄積終了を知らせます。

チクセキ シ'カン	
ネット: 6s ケムリ: S	
- 55秒～60秒後、液晶表示部に結果を5秒間表示します。**
 - ピットという音で、煙感知器の蓄積終了を知らせます。

チクセキ シ'カン	
ネット: 6s ケムリ: 58s	

(右上につづく)

機能設定(ソフト設定)の設定項目 (詳しい内容は、設定マニュアル)を参照してください。

基本設定項目	
液晶表示部表示内容	設定項目
カイセン シュベツ	回線種別設定
カイセン セッテイ カイ	感知器回線の取付階設定
ホ'ウハイエン レンドウ	防排煙連動設定
ﾀﾞｲｼﾞョウ イシン	代表移行設定
OPスイッチ	オプションスイッチ設定
ケイホウ オンセイ	発報場所音声設定
ショウサイ セッテイ	詳細設定へ移行
詳細設定項目	
液晶表示部表示内容	設定項目
イシン レンドウ	回線別移行設定
レンドウ テイシ	回線別移行停止設定
オンキョウ	警報音響設定
チクセキ	回線別蓄積設定
チクセキ カイシ オンキョウ	蓄積開始音響設定
シュウタンキ タイフ'	終端抵抗器設定
フッキジカン	防排煙復帰制御時間設定
キホン セッテイ	基本設定へ移行
リセット	出荷時設定に戻す

メモリー試験

- 連動操作盤内部で自動的にプログラムデータのチェックをする。**
 - 「メモリー シケン NG」と表示された場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
 - 良の場合は、「メモリー シケン OK」と表示されます。
- 試験スイッチ再度を押し、平常時の監視状態に戻す。**
 - 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

試験中に火災を受信した場合	
自動的に試験状態を解除し、ただちに火災警報します。	
液晶表示部は「イッセイ シケン」の表示に戻ります。(試験開始前の表示)	
試験スイッチを再度押すことにより、火災の表示に切り替わります。	

火災試験の方法

この試験は、連動操作盤内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器などの機器を含めて、試験をしてください。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

- 試験時、この連動操作盤と接続されている機器を連動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押す。(スイッチ注意灯が点滅します。)**
 - 代表移行をしないときは、「移行停止スイッチ」を押してください。(移行停止灯が点滅します。)
 - 代表移行接点(DFc1-DFa1・DFb1)(DFc2-DFa2・DFb2)(DFc3-DFa3)(DFc4-DFa4)が連動しません。
 - 連動操作盤の音響を鳴動させない場合は、受信機音響強制停止状態にしてください。(受信機音響強制停止灯が点滅します。)
 - 回線別移行をしないときは、回線別移行停止設定した該当のスイッチを押してください。(回線別移行停止設定については、設定マニュアルを参照してください。)
 - 押しと回線別移行(In-Ic)の出力が停止になります。
 - 防排煙連動をしないときは、「防排煙連動停止スイッチ」を押してください。(防排煙連動停止灯、防排煙連動停止スイッチ灯が点滅します。)
 - 防排煙制御(D1...Dn-DC)が連動しません。
- 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを2回押し、液晶表示部に「カサイシケン」を表示させてから実行スイッチを押す。**



- ▼▲スイッチを押し、火災試験を行う回線を選択する。**
 - 選択した回線の地区灯が早点滅します。
- 回線を選択した後、実行スイッチを押す。**
 - 1報目の火災試験のとき、蓄積解除・蓄積中灯(赤)が点灯しますので、この間(約7秒間)押し続けてください。

- 防排煙灯が点滅し、選択した回線の地区灯が点滅から点灯、または遅点滅になる。**
 - 主音響が鳴動します。(強制停止していない場合)

- 復旧スイッチを押して警報を止める。**

- 試験スイッチを押すと液晶表示部と地区灯が消える。**(回線選択状態のまま放置した場合でも約32分後に消えます。)

- 1で連動停止・音響停止させたスイッチを平常時の状態に戻す。**(各スイッチ内のランプは消灯します。)

- スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。**

試験中に火災を受信した場合	
試験中の回線が火災を受信した場合、6の操作のあとに火災警報します。	
●試験中以外の回線の地区灯が点灯、または遅点滅した場合、その回線で火災発生のおそれがありますので6の復旧操作後の「防排煙」表示で火災の確認を行ってください。	

点検のしかた(つづき)

感知器の作動回線の確認方法

- 以下の試験は、扉を開けてください。

1 試験復旧スイッチを押す。

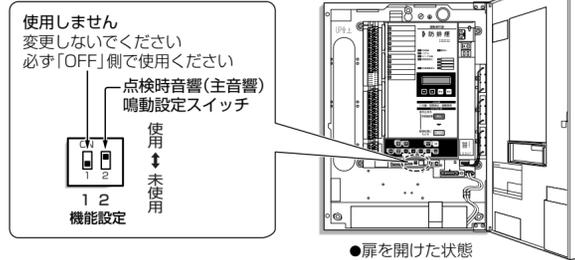
- 試験復旧スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。

2 受信機音響強制停止状態にする。

- 音響強制停止灯が点滅します。

3 連動操作盤内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響)スイッチを「使用」側にする。(出荷時は「未使用」側で点検音響鳴動なし)

- 音響強制停止灯が早点滅に変わります。



4 作動試験をしたい感知器を動作させる。

- 連動操作盤が警報動作したとき主音響は回線を音声で知らせます。

- 複数の回線が警報したときは、先に警報信号を受信した回線の点検音響を出力させます。
- 点検時音響(主音響)鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、音響強制停止灯が消灯している場合は、主音響が約6秒間動作します。

5 試験終了後、連動操作盤内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響)鳴動設定スイッチを「未使用」側にする。

- 「未使用」側にしないと点検時に主音響が鳴動します。
- 音響強制停止灯が点滅に変わります。

6 受信機音響強制停止状態を解除する。

- 音響強制停止灯が消灯します。

7 試験復旧スイッチを再度押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、7の操作のあとに火災警報します。

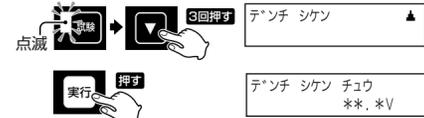
電池試験と電池の電圧測定方法

この試験は、連動操作盤の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池電圧値を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

電池試験

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押して、続いて▼スイッチを3回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



- 自動的に5秒間電池試験を実行します。実行スイッチを押し続けることにより、連続して電池試験を実施することができます。(電池試験中は交流電源灯が消灯します。)
- 実行スイッチを5秒以上押し続けた場合は、実行スイッチを押すのをやめた時点で結果表示を行います。

2 試験結果が「良」の場合は、液晶表示部下側に「リョウ **.*V」(**.*Vは電池電圧)が表示されます。

「良」の場合	「不良」の場合
デンチ シケン ケッカ リョウ **.*V	デンチ シケン ケッカ フリョウ

- 液晶表示部の電池電圧は目安です。正確な電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。
- 「不良」の場合、電池を交換してください。(施工説明書を参照)

3 試験スイッチを再度押し、平常時の監視状態に戻す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

電圧測定

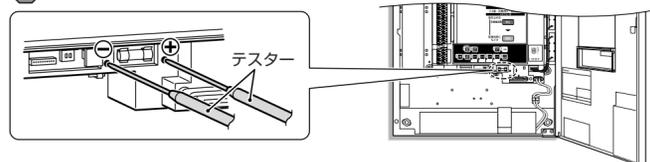
- 以下の試験は、扉を開けてください。

1 試験スイッチを押して、続いて▼スイッチを3回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)

(右上につづく)

2 実行スイッチを押して、液晶表示部に「デンチ シケン チュウ」を表示している間に、本体内の電池電圧の端子にテスターを当てて測定する。(20.4V以上あれば正常です。)

- 極性を間違えないよう、ご注意ください。

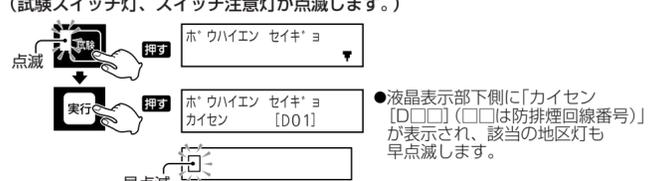


防排煙個別起動制御の方法

この試験は、各回線の防排煙機器が正常に動くかを試験します。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押して、液晶表示部に「ポウハイエン セイギョ」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



2 ▼▲スイッチを押して、防排煙個別起動制御を行う回線を選択する。

- 選択した回線の地区灯が早点滅します。

3 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

4 選択した地区灯が早点滅から点灯に変わる。

- 防排煙側の選択した回線の防火戸などが作動し地区灯が点灯します。(点滅の場合は、防火戸などは未作動です。)

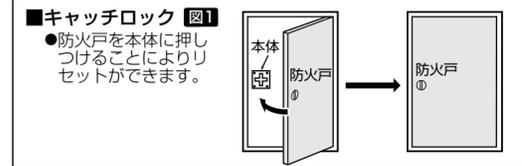
5 復旧スイッチを押す。

6 試験スイッチを押す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が消灯します。
- 液晶表示部が「DA□□ キキサドウ」に変わります。

7 防火戸などをリセットする。(図1参照)

- 液晶表示部、地区灯が消灯したことを確認してください。

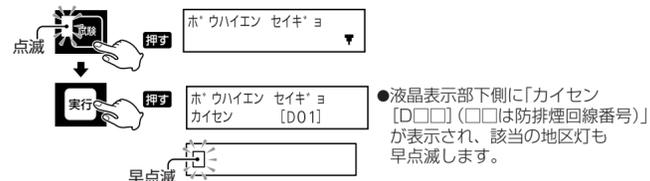


防排煙個別復帰制御の方法

この試験は、各復帰回線の防排煙復帰機能が正常に動くかを試験します。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押して、液晶表示部に「ポウハイエン セイギョ」を表示させてから実行スイッチを押す。(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



2 ▼▲スイッチを押して、防排煙個別復帰制御を行う回線を選択する。

- 液晶表示部下側に「フッキカイセン [D□□] (□□は防排煙復帰回線番号)」が表示され、該当の地区灯も早点滅します。

3 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

- 選択した回線の防排煙復帰制御が出力され、地区灯が早点滅から中点滅に変わります。
- 復帰制御時間が経過すると、出力オフされ、地区灯が早点滅に戻ります。
- 回線種別が復帰制御回線を設定した回線の場合のみ、この動作を行います。(復帰制御時間の設定変更も可能です。(出荷時設定60秒) (詳しくは、設定マニュアルを参照してください。))

4 復帰完了の確認は、選択した回線の防排煙機器の場所に行き、確認してください。

- 地区灯は復帰完了後、消灯します。(回線選択状態のままの時は、早点滅のまま)

定期試験について

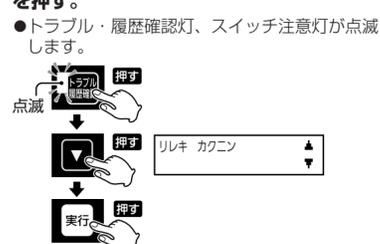
- この試験は連動操作盤内の試験です。
- 定期試験の内容は、「火災受信回路試験」「電源試験(電池試験)」「登録データのチェック」です。
- 試験実行は、約168時間に1回実施し、試験結果が「不良」の場合、トラブル灯が点滅し液晶画面にトラブル表示します。(トラブル発生時の点検・処置については、「トラブル発生時の点検・処置」を参照してください。)

発報/操作履歴の確認方法

- この操作は、過去の連動操作盤動作・操作内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

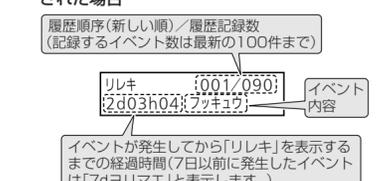
1 トラブル・履歴確認スイッチを押して、続いて▼スイッチを押して、液晶表示部に「リレキ カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。



- 液晶表示部に履歴内容を新しい物から表示します。(詳しくは「履歴表示内容」を参照してください。)

例 今から2日3時間4分前に復旧スイッチを操作された場合



2 ▼スイッチを押すごとに履歴内容が変わります。

- 火災発生時の履歴表示時は、発生回線の地区灯も点灯します。

例 2番目の履歴内容 2日3時間45分前に回線1で火災が発生



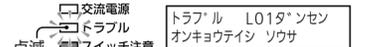
▼(右上につづく)

トラブル確認の方法

- この操作はトラブル灯が点滅し、音声警報が鳴動したとき、トラブルの内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

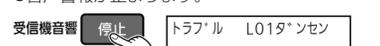
1 トラブルが発生すると

- トラブル灯が点滅し、音声警報音(「ピー トラブルが発生しました。」)が鳴り、液晶表示部にトラブル内容を表示します。



2 受信機音響停止スイッチを押す。

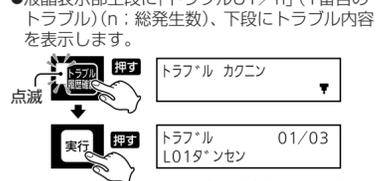
- 音声警報が止まります。



トラブルが複数箇所発生している場合

1 トラブル・履歴確認スイッチを押して、液晶表示部に「トラブル カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が点滅します。
- 液晶表示部上段に「トラブル01/n」(1番目のトラブル)(n: 総発生数)、下段にトラブル内容を表示します。



2 ▼スイッチを押すたびに次のトラブル内容が変わります。

3 「トラブル発生時の点検・処置」にしたがってトラブルを復旧させる。

- トラブルが復旧すれば、トラブル灯が消灯し、液晶表示部は「トラブル 00/00」になります。

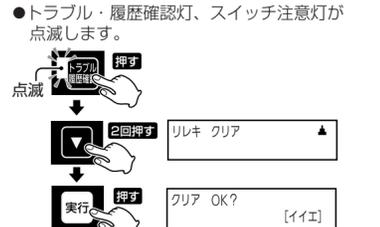
3 トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- トラブル・履歴確認灯・スイッチ注意灯が消灯します。

履歴を消したい場合

1 トラブル・履歴確認スイッチを押して、続いて▼スイッチを2回押し、液晶表示部に「リレキ クリア」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。

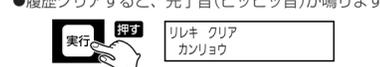


2 ▼スイッチを押して、「ハイ」に変更する。

- クリア OK? [ハイ]

3 実行スイッチを押す。

- 今までに記録していたすべての履歴内容が削除されます。
- 履歴クリアすると、完了音(ピッピ音)が鳴ります。



4 トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が消灯します。

■トラブル発生時の点検・処置

液晶表示部の表示内容	点 検	処 置
L**タンセン (**: 回線番号)	感知器配線が断線していないか? 感知器配線に終端抵抗器が接続されているか? 指定外の終端抵抗器が接続されていないか? 終端抵抗設定が正しく設定されているか? 使用していない回線のあき回線登録がされているか?	配線を直す。 指定の終端抵抗器を接続する。 指定の終端抵抗器と交換する。 終端抵抗器設定を確認する。(詳しくは設定マニュアルを参照。) 連動操作盤のあき回線登録スイッチであき回線の再登録を行う。
BT ハズレ	電池が接続されているか? 電池ヒューズ(F3) (5A) が切れていないか?	連動操作盤内の電池を接続する。 ヒューズ(F3) (5A) を交換する。
デンアツErr	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか? 停電などにより連動操作盤の交流電源が切れていないか?	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 停電状態が復電するまで待つ。
ドウサフノウ	副受信機電源(DI+-DI-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	連動操作盤内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡する。 連動操作盤内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡する。
カイル**Err (**: 回線番号)	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか? 停電などにより連動操作盤の交流電源が切れていないか? 副受信機電源(DI+-DI-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	連動操作盤内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡する。 連動操作盤内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡する。
BTシケン NG	電池試験を行い、電池試験結果が「良」となるか?	新しい電池と交換し、再度電池試験を行い、結果が「良」になることを確認する。(新しい電池に交換しても、再度電池試験をしないと「BT シケン NG」の表示は消えません。)
データErr1	---	ソフト登録データ異常です。ソフト設定を再度行う。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡する。
データErr2	---	使用回線の登録データ異常です。あき回線登録を再度行う。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡する。
メモリErr	---	内部メモリ異常です。施工店または点検契約店に連絡する。
N**トラブル (**: 01~04)	諸警報入力端子(Nn-NC)が短絡していないか? 諸警報入力端子(Nn-NC)に接続されている機器が出力していないか?	配線を直す。 接続機器を確認する。
I タンラク	副受信機電源配線(DI+-DI-)が短絡していないか?	配線を直して約1分間待つ。
D タンラク	防排煙機器制御配線(Dn-DC)が短絡していないか?	該当回線の配線を直して、再度防排煙制御出力を行い、短絡が発生しないことを確認する。